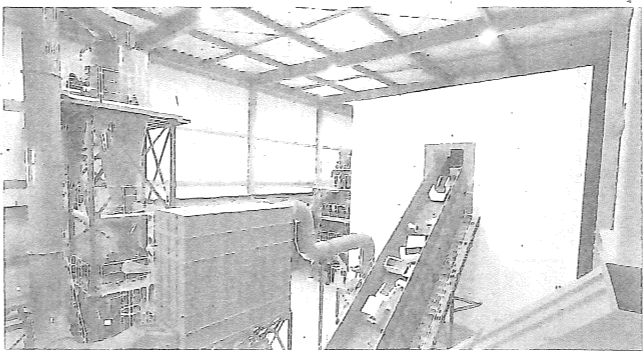


第2工場大型破碎施設を竣工

東金属 使用済み家電製品を再資源化



大型破碎施設

ヤマダホールディングスグループの東金属(本社・群馬県太田市、宮下徹社長)はこのたび、小型家電を取り扱う群馬第2工場(群馬県太田市)で、「大型破碎施設」の稼働を開始

した。新築屋の1階では、使用済み家電製品の解体と大型破碎機による処理を行っている。階では、分解とリチウムイオン電池および精密機器類の解体を実施する。同工場全体での処理能力は日量約63トとなり、多様な使用済み家電製品の再資源化に努める。小型家電リサイクル事業に専念していた既存の建屋では、より効率的な処理を行えるようレイアウトを変更した。検品・解体ラインで資源物や処理困難物を取り除いてから破碎・選別ラインで素材別に選別する。特に検品ラインでは、独自開発となる電子レンジ専用のガラス割り機を導入した。これにより、ガラス除去作業での従業員の安全を確保するとともに、破碎物に混入するガラスを減らし、資源物の品質向上にもつなげている。

また、新たに選別ラインを新設し、ナゲツト加工機も導入した。小型家電と使用済み家電製品から切り離れたコード類を処理して銅を抽出している。他にも、冷蔵庫の断熱材等から回収したウレタンを圧縮溶融し、固形燃料の製造も開始している。

群馬第1工場では再編を進めており、廃棄物焼却発電を行うための施設「ヤマダ資源エネルギープラント」を2026年度中に稼働させることを目指している。(関連記事3面)

東金属

グループ全体での循環を促進

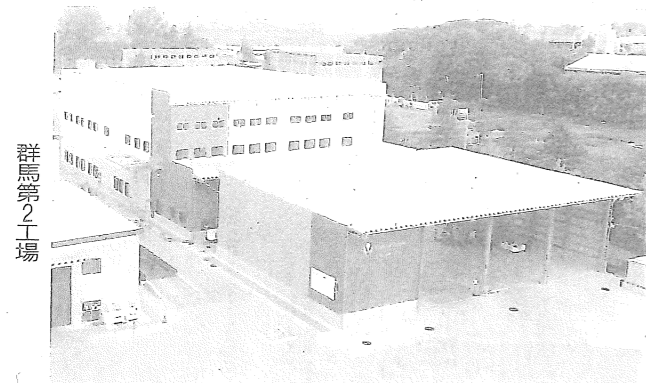
各工程の見える化を実施

トレーサビリティを管理

東金属(本社・群馬県太田市、宮下徹社長)では、群馬第2工場に使用済み家電製品や小型家電の再資源化を行っている。ヤマダホールディングスグループの再資源化拠点として機能する同社は、リユースできなくなった使用済み

家電製品の処理から、リサイクルに向かない処理残さを使ったサーマルリカバリー事業までを手掛ける。(関連記事1面)

ユースできない使用済み家電製品の再資源化を行う。再資源化された素材は、家電製品、店舗備品への活用で資源を循環させ、再生できなかつたものは「ヤマダ資源エネルギープラント」のサーマルリカバリーによってエネルギー(電力)創出につなげていく。



群馬第2工場

グループ会社であるシー・アイ・シー(本社・群馬県高崎市)で

使用済み家電製品のリユース化、東金属で